

学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査 (札幌市ヤングケアラーに関する実態調査)

調査の回答期限

返信用封筒に調査票を入れて、**令和3年11月30日(火)まで**
に郵便ポストに投函してください。(切手は不要です)

<お問い合わせ先>

札幌市子ども未来局子ども育成部子どもの権利推進課 (担当: 長谷川、福島)

電話: 011-211-2942 ファクス: 011-211-2943

<発送者・調査業務受注者>

キャリアフィット株式会社 (担当: 小倉、青木、石田)

電話: 011-206-9654 ファクス: 011-211-4694



I. 基本情報

問1 ご回答された方の役職をお教えてください。

1. 校長
2. 教頭
3. 主幹・主任教諭 (具体的に: _____)
4. 養護教諭
5. スクールソーシャルワーカー (SSW)
6. スクールカウンセラー (SC)
7. その他 (_____)

問2 貴校の学校区分をお教えてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 中学校 | 2. 中等教育学校 |
| 3. 高等学校 (全日制) | 4. 高等学校 (定時制) |
| 5. 特別支援学校 | |

問3 全校生徒の人数についてお教えてください。(令和3年5月1日時点)

(_____) 人

Ⅱ. 支援が必要だと思われる子どもへの対応についてお伺いします。

問4 下記の子どもについて校内で情報を共有しているケースはありますか。(複数選択可)

1. 学校を休みがちである
2. 遅刻や早退が多い
3. 保健室で過ごしていることが多い
4. 精神的な不安定さがある
5. 身だしなみが整っていない
6. 学力が低下している
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
9. 学校に必要なものを家庭で用意してもらえない
10. 部活を途中でやめてしまった
11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
12. 諸納金の支払いが遅れる、未払い
13. 居眠りが多い
14. 非常に疲れている様子がある
15. その他 ()

問5 問4のケースについて、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでご回答ください。

1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している ⇒問6へ
2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している ⇒問6へ
3. 個別に対応している(決まった検討体制はない) ⇒問7へ

問6 問5で「1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、又は「2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した方にお伺いします。校内ではどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。

(1) 情報共有・対応の検討の方法等(複数選択可)

1. スクリーニング会議※ ⇒問6(2)(ア)へ
2. ケース会議 ⇒問6(2)(イ)へ
3. 生徒指導部・委員会など ⇒問6(2)(ウ)へ
4. 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有
5. 教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など子どもの抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置
6. その他 () ⇒問6(エ)へ

※すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援が必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議。

(2) (1)で「1. スクリーニング会議」「2. ケース会議」「3. 生徒指導部・委員会など」、「6. その他」と回答した方にお伺いします。どの教職員が参加していますか。また、会議の頻度はどれくらいですか。下記選択肢の番号を選び、あてはまる欄に記入してください。

| | 参加者 | 頻度 |
|----------------------|-----|----|
| 問6(2)(ア) スクリーニング会議 | | |
| 問6(2)(イ) ケース会議 | | |
| 問6(2)(ウ) 生徒指導部・委員会など | | |
| 問6(2)(エ) その他 | | |

[参加者：選択肢（複数選択可）]

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 校長 | 2. 教頭 |
| 3. 学年主任 | 4. 担任教諭 |
| 5. 生徒指導担当 | 6. 養護教諭 |
| 7. S S W | 8. S C |
| 9. 外部の関係機関 () | |
| 10. その他 () | |

[頻度：選択肢]

- | |
|--------------|
| 1. 2週間に1回以上 |
| 2. 月に1回程度 |
| 3. 半年に1回程度 |
| 4. 年に1回程度 |
| 5. 必要な時に随時開催 |

問7 問5で「3. 個別に対応している」と回答した方にお伺いします。問4のケースについて、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について具体的にお教えてください。

問 8 問 4 のケースについて、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。(複数選択可)

| | 体制 (1つに○) | 関係機関 (あてはまる番号を記入) |
|------------|------------------------|-------------------|
| ア. 不登校のケース | 1. ある _____ 2. 特にない | → |
| イ. その他 () | 1. ある _____ 2. 特にない | → |

[関係機関：選択肢]

1. 教育委員会
2. S S W、S C
3. 各区の福祉部門 (4を除く)
4. 各区の保健部門 (保健センター)
5. 各区家庭児童相談室 (要対協調整機関/虐待対応部門)
6. 教育支援センター (適応指導教室)
7. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
8. 児童相談所
9. 民生委員・児童委員
10. 医療機関
11. 警察や刑事司法関係機関
12. その他 ()

Ⅲ. ヤングケアラーについてお伺いします。

問9 貴校では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。

1. 言葉を知らない ⇒問12へ
2. 言葉を聞いたことがあるが、具体的には知らない ⇒問12へ
3. 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない ⇒問12へ
4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している ⇒問10へ

問10 問9で「4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。

1. 把握している ⇒問11へ
2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない ⇒問12へ
3. 該当する子どもはいない（これまでもいなかった） ⇒問12へ






問11 問10で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。

1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
3. その他（ ）

問12 ヤングケアラーを把握していない方も含め、全員にお伺いします。

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」のことを言います。ヤングケアラーの定義を踏まえて、以下の設問にお答えください。

(ヤングケアラーのイメージ(例))

| | | | | |
|---|--|--|--|--|
|  <p>障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている</p> |  <p>家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている</p> |  <p>障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている</p> |  <p>目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている</p> |  <p>日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている</p> |
|  <p>家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている</p> |  <p>アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している</p> |  <p>がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている</p> |  <p>障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている</p> |  <p>障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている</p> |

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

ヤングケアラーの定義を踏まえて、現在、貴校にヤングケアラーと思われる（可能性を含めて）子どもはいますか。

1. いる ⇒問 13 へ
2. いない ⇒問 15 へ
3. わからない ⇒問 14 へ

問 13 問 12 で「1. いる」と回答した方にお伺いします。

(1) ヤングケアラーと思われる子どもは何人程度いますか。

() 人程度

(2) (1)のうち、本来大人が担うと想定されるような家事や家族の世話などを日常的に行っていることで、学校に行けない、友達と遊ぶ時間がない、自身がしたいと思っていたクラブ活動ができない、宿題などの勉強に割く時間がつくれないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子どもは何人程度いますか。

() 人程度

(3) ヤングケアラーと思われる子どもの状況は下記のうちどれですか。(複数選択可)

1. 障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている
2. 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている
3. 家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている
4. 目を離せない家族の見守りや声かけをしている
5. 家族の通訳をしている
6. 家計を支えるために、アルバイト等をしている
7. アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
8. 病気の家族の看病をしている（たんの吸引や経管栄養の管理等、医療的ケアを含む）
9. 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている
10. 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている
11. 精神的に不安定な家族のケアをしている
12. 障がいや病気の家族の世話や介護のことをいつも気にかけている
13. その他 ()

(4) ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に学校以外の外部（区家庭児童相談室、児童相談所、教育委員会、区の福祉部門など）の支援につないだケースはありますか。(複数選択可)

1. 区家庭児童相談室又は児童相談所に児童虐待通告したケースがある ⇒(5)①へ
2. 児童虐待通告の対象とまで言えないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある ⇒(5)②へ
3. 外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している） ⇒(6)へ

(5) (4) で「1. 区家庭児童相談室又は児童相談所に児童虐待通告したケースがある」、又は「2. 児童虐待通告の対象とまで言えないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」と回答した方にお伺いします。それぞれの該当する直近のケースについて、1件ずつ（複数の場合は任意）お教えてください。

① 区家庭児童相談室又は児童相談所に児童虐待通告したケース

| | | | |
|---|--|-----------|--------|
| 性 別 | 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 |
| 学 年 | 1. 中学（ ）年 | 2. 高校（ ）年 | |
| 学校生活の状況 (複数選択可) | 1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保健室で過ごしていることが多い 4. 精神的な不安定さがある 5. 身だしなみが整っていない 6. 学力が低下している 7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い 8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い 9. 学校に必要なものを家庭で用意してもらえない 10. 部活を途中でやめてしまった 11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する 12. 諸納金の支払いが遅れる、未払い 13. 居眠りが多い 14. 非常に疲れている様子がある 15. その他（ ） | | |
| 家族構成 (すべて選択) | 1. 母親 | 2. 父親 | |
| | 3. 祖母 | 4. 祖父 | |
| | 5. きょうだい | 6. その他（ ） | |
| 家庭での ケアの状況 | ① ケアの状況を把握しているか ⇒ はい ・ いいえ | | |
| | ② 「はい」の場合、ケアの具体的な内容（すべて選択） | | |
| | <u>(ア) ケアを必要としている人</u> 1. 母親 | | |
| | 2. 父親 3. 祖母 | | |
| 4. 祖父 5. きょうだい | | | |
| 6. その他（ ） | | | |
| <u>(イ) ケアを必要としている人の状況</u> 1. 高齢（65歳以上） | | | |
| 2. 幼い | | | |
| 3. 要介護（介護が必要な状態） | | | |
| 4. 認知症 | | | |
| 5. 身体障がい | | | |
| 6. 知的障がい | | | |
| 7. 発達障がい | | | |
| 8. 精神疾患（疑い含む） | | | |
| 9. 依存症（疑い含む） | | | |
| 10. 8, 9以外の病気やけが | | | |
| 11. その他（ ） | | | |
| 12. わからない | | | |

| | |
|--|--|
| | <p>(ウ) ケアの内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯） 2. きょうだい世話や保育所等への送迎 3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など） 4. 外出の付き添い（買い物、散歩など） 5. 通院の付き添い 6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手や遊び相手になるなど） 7. 見守り 8. 通訳（日本語や手話など） 9. 金銭管理 10. 薬の管理 11. 医療的ケア（たんの吸引や経管栄養の管理など） 12. 家計のサポート（家計を支えるためにアルバイトや労働をするなど） 13. 福祉サービス（ホームヘルパーやデイサービス等）の申込みや連絡 14. その他（ ） 15. わからない |
| ヤングケアラーと気づいた理由 ・きっかけ | |
| この世帯がどのような機関とつながっていたか (複数選択可) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関や訪問医療 2. 介護保険や障がいなどの福祉サービス 3. その他（ ） 4. わからない |
| 学校が直接連携した機関はどこか (つないだ機関) (複数選択可) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育委員会 2. S S W、S C 3. 各区の福祉部門（4を除く） 4. 各区の保健部門（保健センター） 5. 教育支援センター（適応指導教室） 6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設 7. 民生委員・児童委員 8. 医療機関 9. 警察や刑事司法関係機関 10. その他（ ） |
| 区家庭児童相談室 又は児童相談所への の通告ルート | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育委員会経由 2. S S W・S C経由 3. 学校から直接連絡 4. その他（ ） |
| 学校で行った支援 (区家児相、児相との 連携も含めて) | |
| 支援した結果 子どもの変化 | |

| | |
|------------------|--|
| 学校から見た 支援の難しさ | |
|------------------|--|

② 児童虐待通告の対象とまで言えないが、学校以外の外部の支援につないだケース

| | | | |
|---------------------------|---|-------------------|----------------|
| 性 別 | 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 |
| 学 年 | 1. 中学 () 年 | 2. 高校 () 年 | |
| 学校生活の状況 (複数選択可) | 1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保健室で過ごしていることが多い 4. 精神的な不安定さがある 5. 身だしなみが整っていない 6. 学力が低下している 7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い 8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い 9. 学校に必要なものを家庭で用意してもらえない 10. 部活を途中でやめてしまった 11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する 12. 諸納金の支払いが遅れる、未払い 13. 居眠りが多い 14. 非常に疲れている様子がある 15. その他 () | | |
| 家族構成 (すべて選択) | 1. 母親 | 2. 父親 | 3. 祖母 |
| | 4. 祖父 | 5. きょうだい | 6. その他 () |
| 家庭での ケアの状況 | ① ケアの状況を把握しているか ⇒ はい ・ いいえ | | |
| | ② 「はい」の場合、ケアの具体的な内容 (すべて選択) | | |
| | <u>(ア) ケアを必要としている人</u> | | |
| | 1. 母親 | 2. 父親 | 3. 祖母 |
| | 4. 祖父 | 5. きょうだい | 6. その他 () |
| <u>(イ) ケアを必要としている人の状況</u> | | | |
| 1. 高齢 (65歳以上) | 2. 若い | 3. 要介護 (介護が必要な状態) | 4. 認知症 |
| 5. 身体障がい | 6. 知的障がい | 7. 発達障がい | 8. 精神疾患 (疑い含む) |
| 9. 依存症 (疑い含む) | 10. 8, 9以外の病気やけが | 11. その他 () | 12. わからない |

| | |
|------------------------------------|---|
| | <p><u>(ウ) ケアの内容</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯） 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎 3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など） 4. 外出の付き添い（買い物、散歩など） 5. 通院の付き添い 6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手や遊び相手になるなど） 7. 見守り 8. 通訳（日本語や手話など） 9. 金銭管理 10. 薬の管理 11. 医療的ケア（たんの吸引や経管栄養の管理など） 12. 家計のサポート（家計を支えるためアルバイトや労働をするなど） 13. 福祉サービス（ホームヘルパーやデイサービス等）の申込みや連絡 14. その他（ ） 15. わからない |
| ヤングケアラーと気づいた理由 ・きっかけ | |
| この世帯がどのような機関とつながっていたか (複数選択可) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関や訪問医療 2. 介護保険や障がいなどの福祉サービス 3. その他（ ） 4. わからない |
| 外部機関へのつなぎ方 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育委員会経由 2. SSW・SC経由 3. 学校から直接連絡 4. その他（ ） |
| 学校が直接連携した機関 (つないだ機関) (複数選択可) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育委員会 2. SSW、SC 3. 各区の福祉部門（4を除く） 4. 各区の保健部門 5. 教育支援センター（適応指導教室） 6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設 7. 民生委員・児童委員 8. 医療機関 9. 警察や刑事司法関係機関 10. その他（ ） |
| 学校で行った支援 (つなぎ先との連携も含めて) | |
| 支援した結果 子どもの変化 | |

| | |
|------------------|--|
| 学校から見た 支援の難しさ | |
|------------------|--|

(6) (4)で「3. 外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）」と回答した方にお伺いします。外部の支援につながらなかった理由をお教えてください。また、どのように対応しているのかお教えてください。

| | |
|---------|--|
| ア. 理由 | |
| イ. 対応方法 | |

(7) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

| |
|--|
| |
|--|

(8) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

| |
|--|
| |
|--|

(9) 問4の選択肢は、「ヤングケアラー」と思われる子どもを把握するためのチェック項目として作成したのですが、追加すべき項目や分かりにくい点や案があればお書きください。

| | |
|----------|--|
| ア. ご意見 | |
| イ. 変更項目案 | |
| ウ. 追加項目案 | |

[参考：問4の選択肢]

| | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1. 学校を休みがちである | 2. 遅刻や早退が多い |
| 3. 保健室で過ごしていることが多い | 4. 精神的な不安定さがある |
| 5. 身だしなみが整っていない | 6. 学力が低下している |
| 7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い | 8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い |
| 9. 学校に必要なものを家庭で用意してもらえない | 10. 部活を途中でやめてしまった |
| 11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する | 12. 諸納金の納入が遅れる、未払い |
| 13. 居眠りが多い | 14. 非常に疲れている様子がある |

問 14 問 12 で「3. わからない」と回答した方にお伺いします。その理由をお教えてください。(複数選択可)

1. 学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2. 不登校やいじめなどに比べ緊急性が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
3. 家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
4. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
5. その他 ()

問 15 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(複数選択可)

1. 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
2. 保護者がヤングケアラーについて知ること
3. 教職員がヤングケアラーについて知ること
4. 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
5. SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること
6. 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
7. ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
8. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
9. 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
10. ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること
11. 福祉と教育の連携を進めること
(具体的に:)
12. その他 ()
13. 特にない

問 16 ヤングケアラーへの支援に関して自由にご意見をお書きください。

アンケートは以上で終了です。ご協力いただきありがとうございました。